

川と緑のふれあう 世代を越えて夢紡ぐまち吉野川市



FEEL! YOSHINOOGAWA CITY TOUR

吉野川市で徳島を感じる旅



自然と人の営みが息づく「川と緑のまち」

吉野川市の北側には清流「吉野川」、南側は「四国山脈」が立ち並び、市東部の鴨島町は商業の町、中央部の川島町は城下町、西部の山川町は霊峰高越山が育む自然豊かな町、そして南部の美郷は日本の原風景がそのまま残る豊かな山村です。四季折々の豊かな自然の中で紡がれてきた1300年の歴史を持つ「阿波手漉き和紙」

をはじめ、元々家庭の味であった「梅酒」を、特区認定を機に、独自性のある商品に開発するなど、地域の特産に新たな価値を付与し、日本全国、世界へと発信を広げています。誇りある歴史と伝統、文化を継承しながら、「地域の活性化」と「次世代の担い手創出」を目指し、進化するまち、それが吉野川市です。

PICKUP CONTENTS

コンテンツの魅力

SUSTAINABLE



阿波手漉き和紙 阿波和紙伝統産業会館

阿波和紙は上品で柔らかく、水に強く破れにくい耐久性があり、その歴史は8世紀初めに阿波忌部族が麻や楮を植え、紙や布の製造を盛んに行ったことにさかのぼります。現在は「阿波和紙伝統産業会館」で現代の生活空間や若者に向けた和紙づくりが行われ、国内外のアーティストたちから高い人気を得ています。

NATURE



高越山と船窪つつじ公園(5月中旬～下旬)

高越山は四季折々の風景が美しく、「阿波富士」として親しまれています。山頂には高越寺があり、毎年8月18日に例祭が開催されています。山域内には国の天然記念物である「船窪つつじ群落」があり、300年のつつじが春の新緑と真っ赤な花で彩ります。見頃は5月中旬から下旬で、その美しさは心を和ませます。

SUSTAINABLE



美郷の高開の石積み

「ソラ」とも呼ばれる標高約360mの高台にある美郷地区の高開は、「にほんの里100選」に選ばれ、文化庁の重要な文化的景観に指定されています。急峻な土地に農地を開き家を構えるために発展した石積み技術が特徴で、地域の生活、文化、歴史の象徴とされています。約300年前の江戸時代中期に築造され、今でも美しい景観が維持されている歴史ある石積みは、住民の誇りとなっています。

NATURE



美郷のホテル(5月下旬～6月中旬頃)

1970年に美郷地区全域が「美郷のホテルおよびその生息地」として国の天然記念物に指定され、この地域はホテルの飛ぶ面積、数、期間ともに全国でも有数の豊かな生息地です。ゲンジボタルは水のきれいな川に生息し、産卵には苔のある場所、生育には土の岸辺が必要です。美郷は質の高い自然に恵まれ、夏の始まりを告げるホテルは5月下旬から6月中旬頃まで見られます。夜の川辺で揺らぐ光は、どの時代でも見る人に優しい気持ちをもたらしています。

SPIRITUAL



空海をたどるいやしの道ウォーク(5月) 四国88カ所霊場11番札所藤井寺

約1200年前、空海が歩いた四国霊場のへんろ道の一部は、現在もそのまま残ります。11番札所藤井寺から12番札所焼山寺への道は、未整備で天気予報も不確かだった当時の過酷な状況を体験できる唯一のへんろ道です。住民は修行のような歩き廻路を見て「お接待」として、見返りを求めず食べ物などをお裾分けしていました。この風習は現代にも受け継がれ、毎年5月に開催されるへんろ道ウォーキングイベントでは地域の人々が参加者へのお接待を行っています。

FOOD & DRINK



「梅酒特区」美郷 梅酒まつり(11月) 梅の花まつり(2月下旬～3月中旬)

美郷地区は県内有数の梅の産地で、「梅酒特区」認定を受け、生産者との交流が楽しめます。5つの酒蔵所があり、梅酒まつりでは様々な梅酒を試飲しながら地域の方との会話が楽しめます。梅の花まつりでは、美郷一帯に咲く梅の花の美しさと香りが春の訪れを感じさせます。

